

# 研究開発成果実装支援プログラム 評価報告書

平成 25 年 2 月

研究開発成果実装支援プログラム PO・AD 委員会

## 課題

名称：英虞湾の環境再生へ向けた住民参加型の干潟再生体制の構築

期間：平成 21 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日

実装責任者：三重県水産研究所 主任研究員 国分 秀樹

## 1. 総合評価

十分な成果が得られたと評価された。英虞湾内の沿岸遊休地を干潟として有効活用し、豊かな生態系回復を可能とする再生技術の実装に成功した。干潟への海水導入の有効性を科学的に証明し、英虞湾に放流されたアサリやコアマモは干潟再生のシンボルとなった。沿岸域の管理は様々な行政部局が複雑に関係しており、実装責任者は地道な努力によって、関連諸機関の確認・調整を行いながら活動実施のためのマニュアルをまとめた。実装地域を丹生の池、大谷浦に拡大し、地元企業の CSR や里海再生事業に結び付けた。地元住民、漁業者、自治会、観光業界、行政などの理解を得るために講習会やシンポジウムを開催し、国内外からの視察や招待講演にも積極的に対応したことにより、実装活動の拡大を図ることが出来た。平成 22 年に名古屋で生物多様性の国際会議 COP10 が開催され、干潟再生による自然との共生活動を世界へ向けて発信した。当初は困難と予想されていた干潟再生に一定の見通しを立て、市民活動に発展させた本実装が、モデルケースとして世界各地に広がることが期待される。

## 2. 各項目評価

### (ア) 実装支援の目標の達成状況

概ね達成されたと評価された。沿岸の遊休地を干潟再生に有効活用することにより、生物の豊かな生態系を回復させ、干潟としての機能を発揮させ得ることを実証した。また、行政担当者や市民が連携して実装活動に取り組める機会を多く設け、多様なステイクホルダーと協働でプロジェクトを推進したことが高く評価される。本プロジェクトは地域の持続可能な活動へと繋ぐことに成功したが、今後は、このような成果を他地域に普及させるための工夫が必要になると思われる。特に他地域で核となる人材をどのように育成するかという課題については検討の余地がある。

### (イ) 実装支援終了後の実装の継続及び発展の可能性

大いに可能性ありと評価された。本プロジェクトは、志摩市の里海基本計画に引き継がれることとなり、今後も継続的な活動が期待される。沿岸域を管理する行政部局間の連携関係を構築し、干潟再生に係る分野横断的な議論の場を作り上げただけでなく、行政部局と地域コミュニティをつなぐことにも尽力した。実装支援終了後

の展開を見据えて、最終年度には英虞湾自然再生協議会が中心となって実装活動を行った。英虞湾自然再生協議会内に地元住民主導の取り組みが継続される体制を作り、行政や企業と連携しながら、市民への啓発活動を行った。総じて、地域の自然再生に向けて安定した基盤が構築されており今後の継続及び発展の可能性は高いといえる。

(ウ) 組織体制は適正であったか

適正であったと評価された。沿岸域や堤防を管理する地元農業部局や水産部等の行政機関と連携のもとに、干潟再生研究会や英虞湾自然再生協議会を組織し、行政の抱える課題や問題点を検討・整理し、解決に向けて取り組んでいる。また、民間企業との共同研究体制を構築し、「干潟再生マニュアル」を作成し実践した。関係機関を柔軟かつ効果的に巻き込むことで、多様で、しかも、時を迫って大きく変わる課題に巧みに対処したといえる。実装責任者自身が指摘しているように、複雑な沿岸域の管理体制に対して実装活動を円滑に進めることができたのは、地元住民や行政との合意形成が実現できたからであり、市の政策として本プロジェクトが継承されることになった理由は、組織体制が適正であったからである。地元志摩市において本事業と並行して立ち上がった英虞湾自然再生協議会は、沿岸域に係る市民や行政、NPO 法人など、多様な主体が入った協議会であったために、効果的にプロジェクトを推し進めることができた。また、英虞湾自然再生協議会の活動は、志摩市の重点施策として志摩市里海創生推進協議会へと引き継がれ、志摩市総合計画の後期基本計画の中にも干潟再生が重点課題として位置づけられることになった。多様なステイクホルダーと協働関係を構築できたことが、実装活動を後押しした。

3. その他特記事項

本プロジェクトは、この種の自然再生計画の実施に際し、大いに参考となるモデルであると考えられる。直接の利益者が見えない時点で、実証段階の支援を受け、ステイクホルダーに研究成果の有効性を示すことに成功した。その意味で、社会実装に大変ふさわしいテーマであった。今後は、全国規模での研修会や勉強会を継続的に実施してほしい。干潟再生に悩む他地域に指導者を派遣し、それぞれの地域に新たな指導者が育っていくような仕組みづくりを期待する。

以上